



6月の園だより

令和 7 年 6 月 2 日

目黒区立中町保育園 園長

園庭で3・4歳児クラスがおうちごっこを始めました。マットを敷きつめた床面積が広めの3歳児の家にはフープや車等のお気に入りの玩具が持ち込まれていて賑やかです。4歳児は壁や天井を作るために友達と必要な道具を運ぶのですが、思うように立たない壁、重さで崩れてしまう天井に苦戦しています。その頃、3歳児の家ではみんなが『家の主役』になりたくて主張し「〇〇ちゃんは犬（の役）になってよ」なんて声が聞こえてきて、雲行きが怪しい瞬間があります。一方、4歳児はどうやっても生じる天井と壁の隙間をある子が「ここから入るといいね」と提案したことをきっかけに雰囲気明るく一変し、家作りが加速していきます。最終的には、狭いけれど壁も天井もある立体的な家が完成していました。“どんな遊びをしたいか”はある程度一致していても“そこからどんな風に展開するか”を言葉や行動で示したり確認したりすることが難しい3歳児と、主張もしつつ、遊びのイメージを伝え合う力がついてきている4歳児との発達の違いを感じる場面でした。

保育士との信頼関係がしっかりと形づくられた上で子ども同士が関わり、社会性を育んでいく大切さを感じます。相手があるからこそ生まれるトラブルや自我のぶつかり合い、葛藤等は避けられませんが、それらを経験しながら周りの子への関心を高め、視野を広げ、一緒に遊ぶ楽しさや喜びを感じられるように援助していきます。

先月は2～5歳児クラスの懇談会を行いました。ご家庭という力を抜ける場所、わがまを言える場所、頑張る必要のない場所があること、何より深い愛情に包まれた場所があることによって、保育園でのびのび過ごす姿につながっていると実感しました。保護者の皆様との懇談は、子どもが子どもの中で育つ場として保育園はどんな役割を担っているのか、私たち職員が今一度見つめ直す貴重な機会となっています。

行事予定

環境教室	(3・4・5歳児)
歯科検診	(全園児)
定期健康診断	(全園児)
眼科検診	(全園児)
耳鼻科検診	(3・4・5歳児)

中甸 身体計測 避難訓練



『ムッシバン』をやっつけよう

6月4日は虫歯予防デーです。先日、4・5歳児クラスを対象に看護師による歯磨き指導を行いました。「上手にできてる?」「もう歯がぬけたよ」とやり取りしながら歯磨きを楽しみました。良い歯磨き習慣によって20本の子どもの歯を大切に感じてもらえると嬉しいです。保護者の皆様には仕上げ磨きをよろしく願いいたします。



ふとした瞬間 生まれた疑問

おひさま組になり、いよいよお米作りが始まります。まずは田んぼの『しろかき(土作り)』について説明し、黒土と水を混ぜてどれくらいのトロトロ加減にすればよいか子どもたちと話をしました。「ゼリーみたいにする」「泥んこくらいかな」という声がある中、最終的に『溶けたチョコレート』を目指すことにしました。水を含んでドロツとした中にある黒土の塊を一つひとつ潰していきます。「まだザラザラだね」と指先で感触を確かめながら潰しますが、固くて難しい箇所もあります。「頑張ろう」「だんだんチョコレートみたいになってきているよ」と友達との会話を通じて再び気持ち前に向いています。ふと「これがさあ、どうやってお米になるのかな…」というつぶやきが聞こえてきました。純粋な疑問にハッとさせられるとともに、活動を通じて子どもの心が動いた瞬間を見つけた思いがしました。

生長過程での気付きに共感することで好奇心に応え、栽培の楽しさにつなげていきます。



見てさわって感じて楽しむ

～0・1・2歳児クラスの感触遊び～

もも組（0歳児）

布や柱の木目等、子どもたちにとって保育室の環境そのものが感触遊びにつながっています。身の回りの色々な物に触れて遊んでほしいと考え、室内の壁に様々な種類の素材を貼って玩具として用意しました。波型の段ボールのくぼみに沿って保育士が指でなぞってみせると、それを真似るように指先で触れています。初めての触り心地に“なんだろう”という表情で、保育士と玩具を交互に見つめています。「不思議だね」と話し掛けながら一緒に触ると少し安心したのか、目を合わせてから再び触れて楽しんでいます。生活の中の感触の一つひとつが子どもたちの五感を優しく刺激しています。



たんぽぽ組（1歳児）

砂おこしを終えたばかりの砂場に入ると、子どもたちはふかふかの砂に足が沈んでいく感覚を楽しみながら歩いています。ある子が砂の塊を見つけると「いし」と言いながら手にしました。石だと思って握ったらポロポロと崩れてサラサラの砂に戻ってしまい「あ、ないねえ」と不思議そうにつぶやいています。別の塊を握っても同じように崩れてしまい、保育士と「ないねえ」と目を合わせて思わず笑顔になりました。その後も、塊を見つけては崩すことを繰り返し楽しんでいました。環境によって変化する砂は魅力的な素材であり、手や足に伝わる感触の違いを遊びの中で自然に感じ取りながら、夢中になって楽しんでいます。



ちゅうりっぷ組（2歳児）

タライの中の泥に手を入れ、大きく動かして手のひら全体で触ったり、ぬかるんだ地面を踏んで足の裏で気持ち良さを感じたり、泥遊びを始めると一人ひとりが違う遊び方を見せています。水を多めに入れた柔らかい泥に触れて「チョコレートみたい」と表現する子もいれば「泥ハンバーグだよ」と硬めの泥でハンバーグを作り、料理を楽しむ子もいます。遊んでいるうちに泥が減ってしまったので量を増やすために砂を一気に入れたところ、泥っぽさが無くなりました。それを見て「泥がなくなっちゃったよ」と言う子どもたちは、砂や水の量によって見た目も感触も変化したことに気付いたようです。見て、触れて、嗅いで、実体験を通してたくさんの気づきや発見をし、興味が広がっていくように援助していきます。

